

# ロボットづくりに情熱

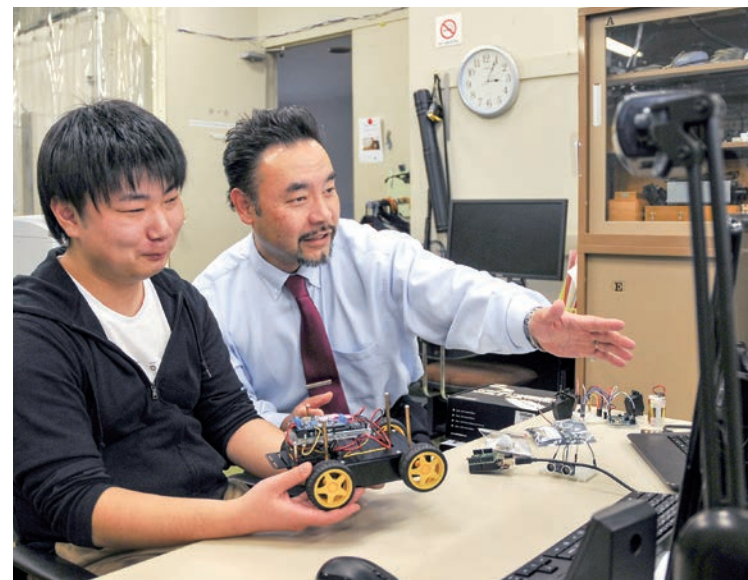
理工・水野研究室

阿部 汐那さん

阿部汐那さん(理工4・宮城県気仙沼高)は機械工学科の水野純研究室でロボット研究に取り組む。

卒業研究では、より安心・安全な生活をサポートするロボットの開発に挑戦。異常をセンサーで感知し、離れた場所においてもスマートフォンなどで自宅の様子を知ることが出来る見張り番のようなロボットを目指している。

留守中、ロボットが自律走行し、巡回監視を行う。侵入者の気配を感知したら追跡し、障害物や妨害も回避しながら追い続ける。モードを切り替えれば、外出先からスマートフォンを使っての遠隔操



開発中のロボットを手に水野教授の指導を受ける阿部さん(左)

所属し、自作のエレキレースドリズムを刻むことも。水野教授は、「課題発見力に優れ、自分なりに解決しようとする研究意欲の高い学生。研究室や大学を存分に活用しながら高度な研究に挑んでほしい」と期待を寄せている。

## 認知度アップ図る

こめぼこ商品化プロジェクト

武藤 有哉さん



石巻北高校の生徒が育てたひとめぼれを米粉にしてつなぎに使い、宮城県産高橋の生徒が開発した揚げかまぼこ「こめぼこ」。高大産連携プロジェクトとして、昨年から経営学部が中心に商品化に取り組んできた。武藤有哉さん(経営3・福島

こめぼこの魅力をPRする武藤さん(左) 4月29日、石巻市民球場

食べ飽きない」と説明する。4月に石巻市民球場で行われた東北楽天ゴールデンイーグルスのファン公式戦で披露した「新こめぼこ」は、6個入り400円(税込込み)。ゼミ生が作成したロボット教室

理を学ぶ佐藤太朗さん(経営3・岩手県東北上高)は、3月が目標だった。高大産連携プロジェクトの一環として、所属する「藤岡平ゼミ」が宮城県立支援校女川高等学園(女川町)でロボットプログラミング体験教室を実施する。初任者の自分たちがまずプログラミングの楽しさを実感し、高生の挑戦を支えよう、小学生向けのプログラミング教室に参加。小学生と保護者の作業をサポートした。

## VRの可能性を研究

理工・木村研究室

廣瀬 陽成さん

廣瀬陽成さん(理工4・福島県喜多方高)はプログラミングが得意。情報電子工学科の木村健司研究室では週2件のプログラミングの課題に取り組む毎日だ。

研究室には、出身も高校も同じである中村薫さん(理工4)ら合わせて3人がおり、廣瀬さんは「教へ、教えられる」と笑顔で話す。指導の木村助教は廣瀬さんのことを「口数少なく、おとなしい印象だが、興味があることにははたむきに取り組む学生」と評する。



研究に取り組む廣瀬さん(右)と木村助教

教が専門とする数学の一分野「グラフ理論」を応用する。現在就職活動中で、システム開発分野を希望している。キャンパスから自転車まで20分のアパートに住む。研究室でも家でも常にコンピュータに向かう毎日だが、研究室の学生たちとカラオケで歌って息抜きをする。

「料理はほとんど自炊。1人暮らしをやっているのがありがたみがある」と話す。

## 観光で盛り上げる

ボランティア活動

阿部 美奈さん



観光で地元を盛り上げたいと、フットワーク軽々さまざまな催しにボランティアスタッフとして参加する阿部美奈さん(経営1・宮城県松島高)。宮城県東松島市生まれ

伝った。会場が分散しているため観客が移動しやすいように案内の看板を目立つ場所に設置。高校生スタッフをサポートしながら接客に当たった。多くの出会いや発見があり、自分の新しい行動につながる」と語る。

地元愛は石巻専修大学愛へと広がり、オーブンキャンプをサポーターする学生スタッフと石巻祭実行委員会にも名を連ねる。入学して、復興ボランティア(学)を受講し、「イベントボランティアとは違う世界を知ることができて新鮮。ボランティアに対する自分の考えを深めたい」と意欲を燃やす。

サッカー・バカダ仙台のスタッフ。地元で貢献する姿勢に共感する。大学で挑戦を重ね、地元で貢献できる力を養う。

## 大学の魅力PR

学生スタッフ

千葉 華穂さん



たいと思った」と話す。オンラインキャンプは高校生と大学生が最初顔合わせする場。千葉さんは「あじうや言葉遣いに気が付いている。『ありがとう』と感謝されるのが一番うれしかった」と笑顔を見せる。

入学のきっかけは、高校で受けた出前授業。杉田博経営学部教授による経営学の講義を聞き「面白そうだな」と思った。現在は岡野知子ゼミで日商簿記検定2級合格を目指している。

学生スタッフの長岡理恵さん(経営3・山形県南陽高)をはじめ「たさの友人ができて交流が広がった」と話している。石巻専修大学の魅力は教員がしっかりとサポートしてくれること。自主性尊重、学びたいことを随分と率に教えてくれる。今後はカラーコーディネーター試験にも挑戦したい」と夢は広がる。

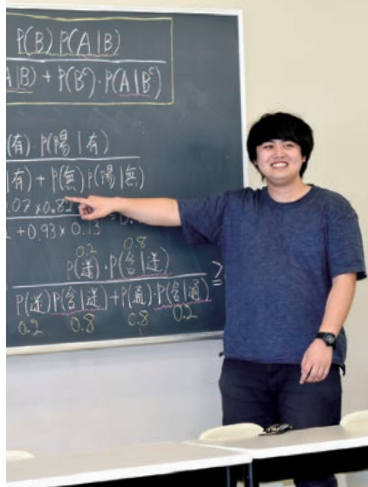
## 地理情報から商圈分析

経営・関口ゼミ

下平 紘也さん

「父が自営業を営んでおり、企業経営に興味があった。経営に関することを幅広く学びたかった」と入学のきっかけを話す下平紘也さん(経営3・岩手県盛岡市立高)。経営学部の関口駿輔ゼミで勉学に励んでいる。

関口ゼミでは人口などの統計情報を地図上に表示するGIS(地理情報システム)を用いた商圈分析を行う。「デ



とで新しいものが生み出せるのではないかと。データを集めて、いずれは出身地の商圈分析を行い、地域の新たな可能性を探りたい」と意欲的だ。ゼミは明るい雰囲気、時

には気分転換を兼ねてゼミ生同士で食事に行く。昨年12月には、学会の学生の集いに参加した。「全員緊張して失敗してしまったと苦笑するが、他大学の学生や先生方の前でプレゼンテーションする初めての機会、良い経験になった。今後外部の研究機関や他大学との活動が行われるので、この経験を生かしたい」と話した。

## 観客を沸かせる

ダンス愛好会

齋藤 大寛さん



体育館でロックダンスを練習する

を機に誕生したばかりのダンス愛好会に入学した。5月27日に松島海岸で開かれた音楽フェスでは、高校生の軽音楽ステージの運営を手

観光で地元を盛り上げたいと、フットワーク軽々さまざまな催しにボランティアスタッフとして参加する阿部美奈さん(経営1・宮城県松島高)。宮城県東松島市生まれ

## 将来見据え英語力培う

人間・長谷川ゼミ

石澤 雅法さん

「培ってきた英語力を生かした仕事をしたい」と話す石澤さん(人間4・福島県

澤雅法さん(人間4・福島県日本大学東北高)。言語学を研究する長谷川香子ゼミに所属し、英語の語源や発音などを学んでいる。「ゼミは英語のみで行われることもあり、スキルアップできた」と大学生活の手応えを語る。

長谷川教授は「明るくて思いやりがあり、ゼミ生からの信頼も厚い。課題や発表にも積極的に取り組んでいる」と人間性を高く評価。6月には母校で英語教員の教育実習を行う。

## 人間教育学科「がってん塾」

キャンパスに近い仮設住宅の集会場に子どもたちの声が響く。人間学部人間教育学科の学生が小中学生の学習を支援する「がってん塾」は南境7団地で昨年4月に始まった。

## 小中学生に特別な放課後を提供



開設のきっかけは、田中秀典特任教授が仮設住宅に住む児童生徒の学習環境を案じたことから。市内の小学校でアンケートしたところ大学生に勉強を教えてほしいという希望が多く、教員志望の学生に協力と呼び掛けた。数ヶ月前から親の送り迎えで通う子もいるなど好評で、昨年6月からは災害公営住宅が建ち並ぶ新地地区でも週1回開催。2力する約30人が利用する。田中特任教授は「学

## 魚と知恵比べ

フィッシング愛好会

加藤 心さん



親潮と黒潮がぶつかる石巻沿岸の三陸・金華山沖は、豊富な魚が集まる釣り人にとって魅力的なスポット。加藤心さん(理工3・青森県弘前高)が部長のフィッシング愛好会(会員70人)は金華山、網地島、女川、狹浜などの内海ポイントを中心に釣りを楽しんでいる。

「魚の気持ちを想像し、海中のルアーを動かす。何回も投げて、さまざまパターンを試してようやく釣ることが出来る。そういった魚の知

恵比べが醍醐味」と話す。「海釣りが好き」で、愛好会では浜釣りのほか、時には船釣りを行う。昨年11月には網地島で30匹のベッコウソイを、今年3月は岩手県陸前高田市で特約のアイナメを釣り上げた。ベッコウソイは釣りの強い魚で、釣り上げた時はうれしかったと釣果に笑顔を見せた。生物科学科で学ぶ「環境や生物に興味があって、授業、実習が充実している」と語った。